

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット5階)

事業所番号	2770301162		
法人名	株式会社エフ・エム・シー介護サービス		
事業所名	FMCグループホーム		
所在地	大阪府寝屋川市本町16番5号		
自己評価作成日	平成30年5月2日	評価結果市町村受理日	平成30年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	平成30年5月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは地域に根付いた事業所を目指しています。自治会からはお餅つき・お祭り・地藏盆・お花見・敬老会・自治会主催の消防訓練等、毎年声をかけていただき入居者様と一緒に参加させていただいております。入居者様も地域の方と顔なじみになり、普段の散歩のときなどもご近所の方や子供さんから「こんにちは、いつもお元気ですね」と声をかけてもらっています。また、地域の一人暮らしの高齢者や体の不自由な方の見守り活動にも力を入れており、自治会長や民生委員の方と連携を図っています。ホームの消防訓練には自治会の消防団の方々も参加して頂き意見をいただくなど友好関係を気づいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1階玄関に新たに作成した介護十訓、介護理念を掲げており、職員一同、これを踏まえ、ご利用者様のケアに携わっています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の方が催す、地域の行事に参加させて頂き、地域の方と交流を図らせて頂いています。顔なじみの関係を築いており、散歩時等にも、挨拶を交わすなど良好な関係を築いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	『介護何でも相談室』の看板を掲げており、いつでも相談を受け入れる体制を築いている。共用デイも行っており、地域の方々に活かす機会が増えている様に思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、頂いた意見を活かし、自治会の様々な行事に参加させて頂くだけでなく、施設内のイベント時にも協力して頂いており、サービス向上に活かしております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	緊急措置の方の受け入れも過去に行っており、生活保護受給者の受け入れもしていることから、施設として市町村の担当者と密に連絡を取り、よりよい関係を築くよう心掛けています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車通りの多い立地であることや、建物内に、他テナントが入っている等の理由から、利用者様の安全を考慮し、玄関の扉等は施錠していますが、勉強会を行うなどして、身体拘束をしないケアを理解し、取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を設け、高齢者虐待について学ぶ機会を持ち、虐待の防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見人制度を利用しておられる方もおられる為、制度について周知していくように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関することは、ホームとして館長が対応されていますが、疑問や不安なことがある時には、十分な説明を行い、理解して頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱をフロアに設置しており、意見・要望を反映できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議・リーダー会議を月1回程度行い、意見や提案を聞く機会を設けており、職員の意見が反映できるように、努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト作成時には、職員の希望休を出来る限り考慮して作成しており、個々の希望に沿った勤務形態に出来るよう配慮しています。意見の出しやすい環境づくりをしており、それぞれの実績や能力を考慮して、向上心を持って働くことが出来るよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップなどを利用し、外部の研修を受けることもできますが、入職時には、未経験でも安心して働いてもらえるよう、職員が付き、仕事を教えるようにしています。ホームでも月1回程度勉強会を実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加することで、同業者との交流を図る機会を設け、サービスの質を向上できるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学时・入居時には、本人様のお話しをしっかり傾聴し、コミュニケーションを図り、要望や、不安に感じている事等を確認し、焦らずに寄り添うように信頼関係を築くよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームとして、可能な限り、ご家族様の思いをくみ取る事が出来るように努めており、よりよい関係づくりを目指しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居する際には、本人様・ご家族様が必要としている支援を見極め、要望に応じた対応が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様のADLや状態を考慮し、それぞれの方にあった役割を持っていただき、共に生活している者同士の関係が築くことの出来るよう、努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方が面会に来られた際には、本人様の現状を伝え、その際にご家族様の要望等も聞かせて頂き、要望に応える事が出来る様努め、ご家族様と共に本人様を支える事ができるような関係を築ける様に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の昔からの知人の方が面会に来られるなど、これまでの関係が途切れることが無いよう、支援を行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性や、ADL等を踏まえて、食事や、レクリエーションの席などの配慮をしています。レクリエーションの際には、孤立しないように職員が間に入り少しでも楽しんで頂ける様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、必要に応じて、相談等あれば対応する様に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	健康面、安全面等に配慮しながら、出来る限り希望にそった生活を送って頂けるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や、ご家族様より、情報を収集するなどして、生活歴や、入居前のサービスの利用などを把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の中で入居者様一人ひとりの現在の様々な状態を把握し、申し送りをしっかりと行い職員間で情報を共有できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスやモニタリング等を実施することで、現状を確認し、家族様の意向や、職員の意見を踏まえて作成するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日誌や申し送り用紙、個人記録を作成、記入し情報を共有する事で、介護計画の見直しが出来るように活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	整骨院や、訪問歯科、訪問カット、、ZIP体操を利用するなど、本人様や家族様の希望に合わせ対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会のイベントや地域の催し物に参加させて頂いたり、近くの神社や公園へ散歩に行くなどしています。 近くにコンビニエンスストアや、イズミヤなどもあるので買い物も楽しんで頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2度、提携しているかかりつけ医にて、往診して頂いています。必要時には、臨時往診もしています。歯科医も本人様の状態や、家族様の意向に沿って、訪問歯科を受けて頂くようにしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子はFaxにてNsに連絡しており急変時には電話連絡し対応して頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携している病院がいくつかあり、その中から、入居者様が掛かりつけた事のある病院を把握し、退院時には看護サマリーを頂くなどして、病院の方とより良い関係づくりに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、「看取り契約書」を作成し、締結するようしており、本人様・ご家族様の意向を踏まえ、チームケアを実践できる様取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルの確認は、会議の際等に、定期的を実施しています。 外部での研修や内部での勉強会も行う等し、実践力を付けることが出来る様に努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急マニュアルを作成し、定期的に会議などで確認するようになっています。 運営推進会議で地域の方とも話し合い、地域の方とも連携を図る為、地域の防災訓練にも参加しています。地域の方にも施設の消防訓練に参加して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護十訓でも、『利用者様の尊厳とその人らしさを守ります』と掲げており、その人らしさや、尊厳を守る事が出来るような支援を心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの参加や、入浴、散歩等、様々な部分で、本人様の体調や意思、希望を尊重して支援を行うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、職員の都合で左右せず、一人一人の体調や心身の状態に合わせ、その方のペースに合わせた対応ができるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問カットの方に来ていただき、身だしなみを整えて頂いています。洋服についても、本人様の意向を聞くなどしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備については、調理員の方がおられる為行っていませんが、食事の片付けについては、手伝って頂いています。日曜日や行事の際には、利用者様にも、協力して頂き、手作りおやつ等をして楽しんで頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は記録に残し、対応しています。一人一人の状態に合わせ、食事形態を、極キザミ・刻み食・ミキサー食、粥・おにぎりなどに変更するなどの対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否が見られる方もおられる為、全員の口腔ケアを毎食後に実施することは出来ませんが、出来る限り口腔ケアを実施するよう努めています。その方の状態に合わせて、口腔ガーゼやスポンジも使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を記載しており、その方の状況に合わせて排泄介助を実施しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に、ヨーグルトや、牛乳を提供し、排便を促していますが、便秘時には、カルピス牛乳を提供するなどして、便秘の予防に努めています。個々に応じた、内服薬での、排便コントロールも行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の体調や、心身状態を考慮して、出来る限り希望に応じた入浴をして頂けるように努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間も出来るだけ、本人様に合わせ、寝つきの悪い方には、ホットミルクを飲用頂くなどして、安眠を促しています。起床時間についても、本人様の状態・状況に合わせて対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重要性や、誤薬の怖さを認識した上で、支援に携わっており、服薬時には、声出し確認を行い、服薬後にも、記録表にサインをする等の対応をしています。内服薬等の内容についても、主治医や、薬剤師、看護師からも説明を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケをして頂いたり、体操・書道レク等、張り合いや楽しみをもって過ごして頂けるよう、努めています。掃除や、食器拭き、洗濯ものたたみ等、役割を持っていただくようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに初詣や、花見、地藏盆や買い物に出かけるなど、様々な企画をし、外出の機会がもてる様、努めています。ご家族様と、外食の機会がもてるよう、本人様の希望をご家族様に伝えるなどの対応もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を理解できなくなっておられる方もおられますが、御一緒に買い物に出かけた際には、支払いをして頂くなどの支援も行っています。ご希望のある方には、ご自身でお金を所持して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望時や、ご家族様から連絡があった際には、電話をして頂いています。手紙についても、字の書ける方には、暑中見舞いなどを自身で書いて頂く等の支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに、入居者様の作品や写真を飾る等しており、月毎にも季節を意識して頂けるようなカレンダーなども作成しています。ベランダでもベランダ園芸を行っており、四季折々の季節感を味わって頂けるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにテレビやカラオケ機を置き、ソファやリクライニング座椅子に座って寛いで頂き、共にリラックスできるような空間作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用されていた家具を置くなどして、使い慣れたものを置き、居心地よく過ごして頂けるようにしています。床で過ごして頂けるように畳や、絨毯を敷くなどの工夫もしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには大きな文字で表記行い、各個人の居室にも見やすい位置に名札や写真を貼るなどの工夫を行っています。		